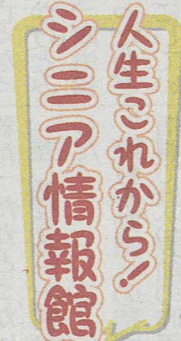




幸 齡 社 会



シニアライフアドバイザー

松本すみ子

携帯電話やスマートフォンを持つシニア世代が増え、カメラ機能を使って街角や旅行先で、^{おぼろ} 赴くままにシャッターを切る人をよく見掛けます。

ただ、その写真データをどうしているのでしょうか。何年も「そのまま」という人もいるでしょう。フィルムのように形として見えないので、つい忘れて

写真の活用法

しまいがちです。

家族や友人との楽しい時間の写真は、思い出や記念として、早めに形にして共有することをお勧めします。例えば、写真集を作ること。といっても、昔のように台紙に貼るアルバムとは異なります。最近では、きれいな写真の「フォトブック」が簡単に作れるのです。

先日、私は70代の友人と高尾山を登りました。きつい山道に四苦八苦しながらも、山頂へ。頑張った記念に、登山の姿と山の景色を写したフォトブックを作ることにしました。簡単なのは、家電量販店などにある「写真コーナー」で作る

方法。好きな写真を選んでボタンを押せば、レイアウトや背景も含めて自動的にフォトブックを作ってくれる、便利な機械が置いてあるでしょう。

写真の説明なども入れられ、気に入らなかつたら、やり直し可能。使い方が分からなければ店員に聞くこともできます。

思い出を共有しよう

また、インターネットを使って写真データを送ると、フォトブックに仕上げてくれる会社もあります。

私たちのフォトブックは写真を20枚ほど入れ、1冊800円程度。手にした友人が喜んだのは言うまでもありません。

さらに、フォトブックを活用しているのが、自転車での旅を趣味にしている友人です。彼は旅をするごとにフォトブックを作り、共通のタイトルを付けて「旅のシリーズ」に。旅先で出会い、お世話になった人々にもプレゼントするとか。もはや、立派な自費出版ですね。

